

米山家水屋

景観遺産

map B-4

離れ家として使われていた住居式の水屋で、墨俣地区の輪中の象徴ともいえる建物です。墨俣地区には、昭和50年代(1975-1984年)に14棟ほどの水屋がありましたが、現在は2棟しか残っていません。米山家水屋は、住居式の水屋としては、この地区に残る唯一の水屋です。(墨俣町ニッポ)

下野家枝垂れ桜と蔵(水屋)

景観遺産

map B-4

鎌倉街道沿いの下野家には、室町幕府第12代将軍足利義晴から拝領されたといわれる樹齢約500年もの枝垂れ桜があります。樹高約8m、枝張り15m以上あり、丸いドーム型をしています。また、この桜の西側には水屋風の古い蔵があります。枝垂れ桜と古い蔵は、門や竹林とともに、とても落ち着いた美しい風景を醸し出しています。

奥田家水屋

景観遺産

map B-4

大正10年(1921年)頃に建築された水屋で、倉庫としても活用されていました。住居と倉庫の機能を備えた水屋としては、墨俣地区に残る唯一の水屋です。母屋とは階段でつながれ、水害が起きた際にスムーズに避難できるような配置されています。水屋内の居室には畳が敷かれ、炊事もできるなど、居住に適した造りになっています。

不破神社

map B-4

「宇治拾遺物語」中に登場する「大海人皇子を救った墨俣の女」は、上宿の村社(不破神社)に祀りしてある不破明神の化身であると伝えられています。

史跡鎌倉街道

map B-4

東西交通の重要な幹線として、古くから東海道と東山道を結ぶ官道が上宿、ニッポを通っていました。鎌倉時代に鎌倉と京都を結ぶ街道として整備されました。西行法師の歌や阿仏尼の「十六夜日記」など、多くの和歌や紀行文に墨俣の地名が記されています。

長良大橋

景観遺産

map C-2

昭和8年(1933年)に建設された鉄橋で、長良川にかかる曲弦ワレントラス橋として美しい姿をしています。同時期に建設された損斐大橋と構造がよく似ています。また、この付近は墨俣の渡船場があった場所で、交通の重要な役割を果たしてきましたが、その後、自動車による往来が盛んになると渡船場は姿を消していきまし。長良大橋は、まさに街道と渡船の歴史から国道と車の歴史への転換期に建設された橋で、近代土木遺産として非常に価値のあるものです。

史跡美濃路

map C-2

慶長7年(1602年)、五街道の東海道と中山道を結ぶ街道として整備され、七つの宿駅の一つとして墨俣宿が設けられました。宿駅には本陣・脇本陣・問屋・渡船場が置かれ、道の両側には旅籠や商店・茶店などが建ち並び、琉球使節や朝鮮通信使の通行をはじめ、多くの人馬の往来で大変賑わいました。

西町八幡神社

map B-1

旧美濃路沿いにあり、もと式内社荒方神社という。「小栗判官・照手姫」で有名な脱獄「をぐり」により、小栗判官が現人神としてまつられているという伝説があります。

さくら湯跡

景観遺産

map B-2

建物前面はカラフルな色使いのタイル貼りで、玄関には文字が入ったタイル画があります。軒下のクラシックな飾りや、2階部分に取り付けられた垂直性を強調する付け柱が、戦前の昭和のモダンなデザインを伝えています。残念ながら、現在銭湯業は廃業されており、銭湯を強く印象づける煙突も危険防止の為、撤去されています。

SUNOMATA GUIDE MAP

桜と歴史のまち 歩くまち・墨俣

ガイドマップ

※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図を使用したものである。(承認番号 平20部使、第21号)

墨俣一夜城

景観遺産

map C-1

木下藤吉郎が一夜にして築城し、太閤出世物語の出発点となった砦城。現在の一夜城は純金の城を配した天守閣形式であり、大垣市墨俣歴史資料館となっています。館内では墨俣城への考古学を展示しており、若き日の秀吉に出会えます。また、展望室からは長良川や金草山をはじめ伊吹山、養老山脈などが一望でき、四季折々の景観は最高です。

■開館時間/午前9時～午後5時 ■休館日/月曜日・祝日の翌日
■入場料/一般 200円、高校生以下 無料
■TEL:0584-62-3322

犀川堤の桜

map C-1

犀川堤には約千本の桜並木が2kmにわたり続いています。この桜並木のトンネルを通ると一夜城址へと続きます。3月下旬～4月中旬の桜まつりには、屋台も出され、夜桜も楽しめます。

墨俣本陣跡

map C-2

本陣は中町にあり、代々澤井氏がつとめ、明治にいたるまで13代続きました。墨俣本陣は、慶長5年の関ヶ原合戦のとき伊達政宗が宿泊したので伊達様本陣ともいわれています。

美濃路墨俣宿脇本陣跡(安藤家)

景観遺産

map C-2

美濃路墨俣宿にあった脇本陣に建つ民家です。脇本陣は明治24年(1891年)の濃尾震災の際に倒壊し、現在は隣接する本正寺に山門が残るのみです。その後、再建されたこの建物は、脇本陣時代の構造を色濃く残しており、当時の宿場町の面影を想うことができます。週末には地元のまちづくり団体がお土産処を開設しています。

寺町界限

景観遺産

map B-2

墨俣の寺町の地名はその名を示す通り付近に寺院が集まり、昔の面影を残しています。等覚寺を除く各寺院は、江戸時代に他所より移転してきており、また美濃路の墨俣宿と関係が深く、歴史の歩みを感じさせてくれます。なかでも本正寺には、明治時代に脇本陣の門が移築されており、山門として残っています。

明台寺

map C-2

浄土宗西山禅林寺派。西美濃三十三霊場第十九番札所。境内には、斎藤利藤・利国父子の墓や土岐源五郎の墓のほか、頼山陽がこの地に投宿したときの墓碑文が残されています。また、橋にまつわる伝説をもつ「橋杖杖地蔵尊」も安置されています。

光受寺(聴風庵)

map B-2

庭に咲く花を愛でながら、心の静かさを取りもどす安らぎの空間。書画展、手づくり農産品などでは心暖まる作品に出会える聴風庵があります。特に梅の咲く頃に訪れたいものです。

満福寺(熊谷堂)

map B-2

満福寺は、寛和年間(985年)天台宗の伽藍として創建されましたが、熊谷運生房や親賢聖人の教化を受け、江戸時代には末寺96カ寺をもつ本山として隆盛を極めました。熊谷堂では熊谷運生房の本尊をはじめ、太閤秀吉の書など多くの寺宝が拝観できます。(拝観料200円)

津島神社

map B-2

墨俣宿ができた頃から本町に牛頭天王を祀っています。明治初期に津島神社と改称されましたが、古くからお天主さんと呼ばれています。毎年7月下旬には天王祭があります。寛政3年(1791年)琉球使節の通行の折、通行記念にに残した琉球国儀衛正毛延柱の刻銘入りの石燈籠があります。

◆出世・鎌倉街道コース 距離: 6km 所要時間: 2時間

1 墨俣一夜城 → 2 太閤出世橋 → 3 犀川堤の桜 → 4 美濃路 → 5 墨俣本陣跡 → 6 明台寺 → 7 上宿橋 → 8 下宿橋 → 9 義円公園 → 10 義円の墓 → 11 下野家枝垂れ桜と蔵 → 12 奥田家水屋 → 13 鎌倉街道 → 14 不破神社 → 15 墨俣本陣初期の墓 → 16 墨俣さくら会館 → 17 墨俣神社 → 18 満福寺 → 19 等覚寺 → 20 光受寺 → 21 本正寺 → 22 広専寺 → 23 脇本陣 → 24 津島神社 → 25 さくら湯跡 → 26 西町八幡神社

◆美濃路コース 距離: 2.5km 所要時間: 1時間

1 墨俣一夜城 → 2 西町八幡神社 → 3 さくら湯跡 → 4 津島神社 → 5 脇本陣 → 6 墨俣本陣跡 → 7 明台寺 → 8 広専寺 → 9 本正寺 → 10 光受寺 → 11 等覚寺 → 12 満福寺 → 13 墨俣神社 → 14 殿町通り → 15 犀川堤の桜

義円公園・源平墨俣川の合戦

map B-5

養和元年(1181年)墨俣川をはさんで平重衡を総大将とする七千余騎の平氏が西岸に、新宮十郎行家、源義円ら三千余騎の源氏が東岸に陣を整え、源平一大合戦がはじまろうとしていました。義円は行家に先をこされまいと一人馬で西岸へ一番乗りをしようとしたが平盛綱に討たれてしまいました。行家は、遅れてなるかと夜討ちをかけたのですが戦いに敗れ矢矧川まで退きました。義円公園内には義円地蔵が祀られ、里人の手により、毎年3月11日の命日に供養が行われます。